

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 氏名 (フリガナ) | 並木雄央 (ナミキ ユウオウ) |
| 研修先機関名 | Hawaii Tokai International College |
| 研修期間 | 2024年8月5日 (月) ~ 8月10日 (土) |
| 大学名 | 東京大学 |
| 学年 | 5年 |

この度、5日間の医学部夏季集中医学英語研修プログラムに参加し、医学生として大きく成長する貴重な機会を得ました。この研修を通じて、医学について深く考察し、自身の可能性を広げることができました。

日本とアメリカの医療には多くの相違点が存在することを実感しました。問診において収集される情報の種類、鑑別診断において考慮される疾患有病率の違い、実施される検査(保険制度の違い)、そして治療方針(臓器ドナーの数)、いずれも国によって異なる点が見受けられました。しかしながら、医学の根底にある理念は共通しており、基本的な医療者としての姿勢や、患者中心の医療の重要性は変わらないことを再確認しました。ハワイの医学生との交流を通じて、異なる文化背景を持つ医療者同士であっても、医学の本質においては同じ志を共有していることを感じました。

本研修において、特に印象深かったのは、Case presentation の経験です。英語という第二言語を用いて、指導医に対して患者の情報を正確に伝えることは、非常にチャレンジングな課題でした。どの情報を含め、どの順番で伝えるべきかを考える必要があり、そのために問診時から工夫を凝らすことが求められました。この経験を通じて、よりシステムティックなアプローチを自然と身につけることができました。これにより、医療者としてのグローバルなコミュニケーションの基盤を形成し、思考力を鍛えることができたことは、医学生として大きな成長につながりました。

この研修を通じて、全国の医学生仲間や、JABSOM (ジョン・A・バーンズ医学部) の学生、そしてハワイで活躍する日本人医師、現地の医師との交流を深めることができました。これらの出会いを通じて、自分の人脈を広げることができ、医学へのモチベーションがさらに高まりました。この刺激的な5日間の研修は、将来のキャリアにおいて、医師として日本および世界にどのように貢献するべきかを考える貴重な機会となりました。

自分と世界をつなぐことは容易ではありませんが、このプログラムはそのためのきっかけと、強力なサポートを提供してくれました。これほど恵まれたプログラムは他に例を見ないものであり、すべての関係者の方々に深く感謝申し上げます。後輩の医学生にも、この貴重なプログラムを積極的に活用し、挑戦していただきたいと思います。医学生として、この研修は必ずや有意義なものとなることでしょう。

最後に改めまして、本プログラムの開催にあたってご尽力いただいた Hawaii Tokai International College・日米医学医療交流財団の皆様、小玉正智先生、ご指導・ご講義いただいた先生方、JABSOM の学生さん、同期のみんなに心より感謝申し上げます。